

| 担当科目 | 1) 現行授業の目標と教育効果 | 2) 自己評価 | 3) 授業改善・対応方法 | 授業評価 回答率 科目G P A |
|----------------------------|--|--|--|-----------------------------------|
| G221001 建築学ゼミナール | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業とおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 | 造形学研究科のマネジメント領域として2年目となる本年度、3名の内部進学者があり、そのうちの1名のゼミ指導を行った。学部3年次編入生ということで、経営学の基礎知識が不足気味であり、前期はコーポレートファイナンスの基礎知識をカバーしてもらうことを授業目標とした。 | 学部3年次編入生ということで、経営学の基礎知識が不足気味であり、前期はコーポレートファイナンスの基礎知識をカバーしてもらうことを授業目標とした。今後は、研究テーマの絞り込みに役立つような授業内容にも留意したい。 | 授業評価- 回収率0% 科目GPA3.00 |
| GA22116 建築学ゼミナールA 集中 | マネジメントの研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業を通して、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的とする。 | 設定したテーマについて個別指導を行った。また、途中経過について発表させ、問題点を自ら見つけ、改善点について指導した。 | 今後は、修論作成に向けてテーマに沿った調査がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。 | 授業評価- 回収率0% 科目GPA3.00 |
| GA22115 建築学ゼミナールA 集中 | 達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 | 授業の性格上、本来は個別指導となるが、前半はマネジメント領域の履修者3人の集合形式で研究の基本についてのレクチャーを中心に行った。研究テーマに関係する論文を収集し、要旨をまとめて発表することで研究センスの修得を図った。 | 留学生であっても理解できるよう専門用語の説明を丁寧にしたい。研究の背景と目的、研究方法、先行研究のレビューといった研究計画をステップを踏んで丁寧に進め、研究のアプローチの基本を計画的に修得させるようにする。 | 授業評価4.200 回収率100% 科目GPA3.00 |
| GA22132 建築時事 | 達成目標 1. 日本国内の建築時事は勿論のこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 2. プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと。 教育効果 情報収集の能力向上を高め、また、情報の処理能力を磨くことが求められます。さらに、単に情報を持ち得るだけでなく、その情報を活用し、人に伝える手法を向上させるものとなります。 | 時間短縮での授業となったため、資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直しました。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫しました。学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。 | 特に問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。 | 授業評価4.75 回答率66.7% 科目GPA5.0 |
| GA22120 建築学ゼミナールC | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 | 時間短縮での授業となったため、学生の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。 | 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。 | 授業評価5.0 回答率100% 科目GPA5.0 |
| GA22134 建築学ゼミナールD | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 | 時間短縮での授業となったため、学生の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。 | 授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。 | 授業評価5.0 回答率100% 科目GPA5.0 |
| GA22103 建築環境論 | 省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができる。 | 省エネや環境負荷低減に配慮した建築について、各回で異なる小テーマについて調べてもらい、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。学生それぞれが、対象地域や建築用途を定め、省エネ建築の提案を行うことができた。 | 各回での調べ学習に取り組みやすいよう、テンポのよい展開を工夫してゆきたい。 | 授業評価4.80 回答率100% 科目GPA3.60 |
| GA22102 実務研究 | 理論的研究ないし知識獲得の成果を社会の要求に対応させること、あるいは実務現場の体験を通して学修成果の会得を確実にすることを目的とします。実務経験を通して、学修成果を社会の現実に関連させる方途を確実に把握することができる。 | 1名が受講した。公共施設のデザインコンペへの参加、企業での実務現場の体験（インターンシップ）に取り組んだ。いずれも精力的に、熱心な取り組みがみられた。 | 大学院らしい、実務現場の体験（インターンシップ）のあり方などを検討してゆきたい。 | 授業評価4.00 回答率100% 科目GPA4.00 |

| | | | | |
|--------------------------------|---|--|---|-----------------------------------|
| GA22107 建築学ゼミナールA | <p>建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業を通して、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p> <p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p> | 1名が受講している。 テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。 | 学生の作業ベースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。 | 授業評価 回答率% 科目GPA |
| G221002 建築学特別講義 オンデマンド授業 | <p>現代社会における建築空間・居住空間に求められる諸課題を、もっとも身近である建築＝「住宅」を対象に学び、これからの社会に求められる建築空間・居住空間のあり方について考えられる。</p> <p>これからの社会は、ITやAIを活用したコミュニケーションの機会が増大し、これまでに培われてきた知識や技術にIoTを加えた新たなモノとのかかわり方をデザインすることが求められます。こうした新しい社会の到来へ向けて、本講義では今ある建築空間・居住空間の来歴と課題を建築学の視点から学びます。</p> | 各先生の授業内容が様々で愉しく学んでいたのではないかと感じている。今回は課題の提出や出席方法も明確したため、学生と先生の間での行き違いが少なく進められた。 | 中国人の学生さんの課題が日本語として理解しずらく感じたが、後半から日本語に慣れていただき、勉強方法にも慣れていただけたようで安心した。 | 授業評価4.30 回答率66.7% 科目GPA3.0 |
| GA22133 設計演習C | <p>目標 実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p> <p>教育効果 建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各領域の設計テーマについての演習を通じて、設計そのものの行為と設計に必要な知識や技能を獲得・向上させる行為とを有機的に接続しながら、実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。</p> | 具体的にリノベーションの物件を設定し、地域調査、未来予測、問題提起から、ビジョンを作り、その施設をどのように活用したら良いのか、リノベーションの提案を行った。 | リノベーションの提案において、今年度は、設計専攻と構造専攻の学生がいたため、設計専攻の学生が考えたプランを構造専攻の学生が構造的に検討した。各専門領域で協力し合い課題に取り組むことは、貴重な経験であり今後も続けていきたい。 | 授業評価5.00 回答率66.7% 科目GPA3.00 |
| GA22126 建築学ゼミナールC | <p>目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p> <p>教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業を通して、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p> | 修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、地域調査、問題提起、コンセプトを整理し、研究報告書の作成を行った。 | 計画地の設定が早い段階で決定できたため、就活中でもスムーズに調査が進められた。今後も早めに決定するように促していきたい。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22140 建築学ゼミナールD | <p>目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p> <p>教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業を通して、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p> | 修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、地域調査、問題提起、コンセプトを整理し、研究報告書の作成を行った。 | 計画地の設定が早い段階で決定できたため、就活中でもスムーズに調査が進められた。今後も早めに決定するように促していきたい。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22101 設計演習A | <p>各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p> | 構造分野の実践的設計能力の向上を目的として、構造図面の作成を中心に課題を行った。 試験課題を含めた課題の状況を見ると多少ではあるが設計能力（構造設計）の向上に寄与できたと考えられる。 | 個別対応で個々の学生の能力に合わせた指導を行うとともに、遠隔による補完授業も実施していくことも検討する。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22118 構造設計論 | <p>構造設計に関する基礎的知識を習得する。 各種構造形式の構造規定を理解できる。 構造計算方法を理解し、身につけることができる。 過去から現在までの技術の変遷を理解できる。</p> | 構造設計や各種構造形式の規定に関する事など、様々な知識を積み重ねるだけでなく、授業内での演習課題を実施し、学生の理解が深めた。 | 大学院授業としての高度かつ専門的な知識の教授だけではなく、逐一学生の理解度を考慮しつつ、授業の難易度を調整するデータ駆動型にシフトしていく必要がある。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |

| | | | | |
|----------------------|--|---|--|-----------------------------------|
| GA22106 建築学ゼミナールA | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 | 授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけ、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力を育成するため、後半の授業では学生が説明する形式をとった。 | 授業の性格上、毎年テーマは異なるが、学生が主体となる指導方法で行う方向にシフトする。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22121 建築学ゼミナールC | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 | 授業の性格上、個別指導となる。研究の進行状況・研究結果をレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力を育成するため、授業の都度、報告する形式とした。 | 授業の性格上、毎年テーマは異なるが、学生が主体となる指導方法で行う方向にシフトする。併せて、Teamsなどの遠隔授業アプリを利用したハイブリッド授業も導入する。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22135 建築学ゼミナールD | 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 | 研究の進行状況・研究結果をレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力を育成するため、授業の都度、報告する形式とした。 | 授業の性格上、毎年テーマは異なるが、学生が主体となる指導方法で行う方向にシフトする。併せて、Teamsなどの遠隔授業アプリを利用したハイブリッド授業も導入する。 | 授業評価 履修者人数の 関係上、非公 表 |
| GA22117 建築設計論 | 諸理論、事例、実務の実際等についての知識を踏まえ、具体的な計画・設計の指針をいかに導出・適用すればよいか判断する力、つまり計画、設計における主体的、行動的、実践的な探求力、分析力、思考力を育てることを目指す。建築造形行為の中核となる建築設計の様々な課題と理論を最新の動向・成果の提示を通じて概括し、空間を具体的に計画・設計するための方法の検討を行う。空間的魅力の条件、集客の手法などを含め各種の理論、実務の実際と評価等が主たる関心であり、文献講読や事例の検討も行いながら、21世紀の建築設計論のあり方を展望し、建築家の社会的役割と責任など、建築、都市、社会の関係に関わる諸問題についても論究する。 | 履修者数1名であった。空間における人の行動から建築設計を考える講義・演習とした。定期試験レポートは、学習した内容から2つのテーマを選択し、調査報告するもの及び建築作品について考える内容とした。テーマ設定から調査方法、報告について指導した。 | 実際の成績に評価は比例はしていると考ええる。レポートのまとめ方・進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行い、まとめる力を付けさせるよう工夫したい。 | 授業評価5.00 回答率100% 科目GPA5.00 |
| GA22110 建築学ゼミナールA | 授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。 | 修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身に付けられるように対話を重ねおこなった。学生自身が考えたテーマの研究結果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。修士論文完成に向けて、全体の構成や達成目標を学生に検討させ、適宜アドバイスを加え行った。 | 学生が興味を持ったことをより深く、広く知り、まとめられるように指導した。資料をもとにした調査を実施し、まとめることができた。来年度修士論文・設計完成に向けて、確実に進められるよう指導をする。 | 授業評価5.0 回答率100% 科目GPA3.50 |
| GA22125 建築学ゼミナールC | 授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。 | 修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身に付けられるように対話を重ねおこなった。学生自身が考えたテーマの研究結果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。 | 昨年度の調査結果や事例を参考に、敷地の選定や周辺環境の読み込みを行い。設計計画を行った。自らの提案を伸ばしつつ、より良い成果になるよう都度指導を行った。 | 授業評価 回答率% 科目GPA3.00 |
| GA22139 建築学ゼミナールD | 授業時間内で、研究の目的や方法、手順などディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目的とし効果をえられるものとする。 | 修士研究であることを意識して、社会的な問題に注目し、調査・分析・考察・提案する能力を身に付けられるように対話を重ねおこなった。学生自身が考えたテーマの研究結果が出るように、タイムマネージメントやタスクマネージメントが自主的にできるよう誘導した。学生が自ら疑問に思っていることを引き出し、それぞれの考えるテーマに近い既往研究や事例を紹介し、研究方法や調査方法など対話を通して進められるようにした。 | 昨年度の調査結果や事例を参考に、敷地の選定や周辺環境の読み込みを行い。設計計画を行った。自らの提案を伸ばしつつ、より良い成果になるよう都度指導を行った。 | 授業評価 回答率% 科目GPA4.00 |
| デザイン学ゼミナールA 集中 | 達成目標□ 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自覚の獲得を目標とする。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。 | 履修者の研究対象が日本の古典的な神社仏閣だったので、題材を決定するのに時間をかけすぎてしまった。 | 集中講義であったが、週日に授業日を設定し、毎週連絡が取れるようにした。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.51 |
| デザイン学ゼミナールC 集中 | 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とする。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握する。 | 参加者は研究を進めることができたとと思う。 | 集中講義であったが週日に授業日を設定し、毎週連絡が取れるようにした。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.52 |

| | | | | |
|------------------------------|---|---|--|-----------------------------------|
| デザイン学ゼミナールD 集中 | 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とする。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて十分に把握する。 | 参加者は研究を進めることができたと思う。 | 集中講義であったが週日に授業日を設定し、毎週連絡が取れるようにした。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.53 |
| GD22101 デザイン演習A | 達成目標 領域の実践的デザイン能力の向上を図りつつ、 ①基本的テーマを迅速・確実に提案する。 ②このために基本的知識・技法を再学習する。 ③より高度な提案に結びつけることができる。 ことを達成目標とします。 目的 研究を実施するために必要となる基盤知識とスキルを獲得しながら、デザイン分野全体を視野に入れた実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。 教育効果 個別指導とグループ討論をしながら、資料収集、調査、分析、アイデア創出、プレゼンテーション、レポート作成等大学院で求められる研究プロセスを進めます。 | 院生はすでに卒業研究を体験しており、院入学時に終了研究を想定して入学しているため、短絡的な終了研究になりがちである。そのため本授業では、終了研究の裾野を広げることを具体的な目標とし、取り組ませてきた。また、思考のみが先走りがちなることを、アイデアスケッチや試作などのものを具現化することの必要性を説いてきた。授業終了時にはかなり具体的なものを見ることができた。 | コロナのため中国から遠隔授業の学生がいたが、途中で音信不通となり、GPAは下がった。 授業開始時はほとんどが手ぶらでの出席だったが、終了の頃は全員何かの進行状態がわかるものを見ることができた。 次年度は今年度以上に具体的な進行状況を形にさせていこうと思う。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.55 |
| GD22134 デザイン時事 | 達成目標 1.過去・現在様々なデザインの時事の背景やポイントとなる問題点を理解すること。 2.自分の意見を交えながらプレゼンテーションでできること。 3.プレゼンテーションを通じて、デザインアイデアを考える手がかりやプロセスを発見すること。 目的 様々な時事問題についての知識と、デザインとの関わりについての理解を深めることを目的とします。 教育効果 様々なデザインを調査することで、デザイナーの社会的役割と責任を実感することができる。 | 初めての授業で当初は戸惑ったが、自ら課題に取り組みそのものを見せることで学生からも取り組みやすかったと思われる。 | 外部から入学の留学生らは優秀で、熱心に取り組んでくれた。 どうしても身近なデザインに偏りがちなので、次年度はより社会的問題に取り組みせようと思う。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.56 |
| GD22113 デザイン学ゼミナールA 集中 | 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自覚の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。 | 受講者は1人。 目的意識が明確で、学習意欲が高いので授業は非常にスムーズに進んだ。 毎回の進捗状況報告では欠かさずスライド資料を用意してくれるので、そこから次の課題を見つけ、リサーチを深めていくことができた。 色覚とカラーユニバーサルデザインに関する文献貸出と、CUDO等関連団体の情報提供をできる限り行った。 NI取得者であるためコミュニケーションに問題はなく、研究テーマ以外にも日中文化論やデザインについて等できる限り対話し、今後のやり取りをスムーズにできるような心がけた。 | 回答者1人。 毎回、提出された資料に対し、日本語の添削をしてフィードバックするようにしたい。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.77 |
| G221005 造形倫理学 | 「造形行為」のもつ本来的かつ実際の意義を認識し、設計から使用するまでの全てのプロセスにおいて起こり得るアクセシビリティや配慮すべき事柄を理解することを目標とする。 | 大学院2年生の選択科目である本授業は、造形活動を社会の中で遂行する際に起こり得る倫理的諸問題の性質、原因、解決、防止の手立てについて理解し、造形行為において不可欠な2つの倫理的視点である生命倫理及び環境倫理の観点から論じ、さらにデザイナーや建築家の職業倫理や研究倫理の考察を通じて、人間の本質につながる造形行為の倫理的問題を究明する内容とする。 毎回、パワーポイントで作成したスライド集を配信し、対面授業でスライドに基づき説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等は授業、UNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に理解の定着を図るようにした。 複数回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。 これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。 | 履修者数6名、回答者数5名 少人数の授業のため、常に授業内で履修者の反応を見ながら理解の定着を図るようにしたため、評価は良好であり、学生による授業評価アンケートの高評価授業となった。 基本的には今年度の授業方法の方針を継続していきたい。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.78 |

| | | | | |
|------------------------------|---|--|---|------------------------------------|
| G221001 日本の造形A | 日本の現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。 | 大学院1年生の選択科目である本授業の内容・方法は、主に人と人との関係に係る社会造形として成立してきた日本の伝統的なコトを対象に、それら社会造形の作法、礼儀、しきたり、行事、担い手等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、社会造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーション等によって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。 毎回、パワーポイントで作成したスライド集を配信し、対面授業でのスライドに基づく説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に、理解の定着を図るようにした。 毎回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。 これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。 | 履修者数16名、回答者数14名 少人数の授業のため、常に授業内で履修者の反応を見ながら理解の定着を図るようにしたため、評価はおおむね良好であった。 次年度以降も、基本的には今年度の授業方法の方針を継続していきたい。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.79 |
| GD22106 製品デザイン論 | 身近な生活の中こそ重要なデザイナーがあることを体験的に理解し、ユーザーの生活に基づく新たなデザイン提案能力の向上が目標である。 学部では学ばなかったであろう事項を積極的に取り上げ、より専門知識を高めていく。 | 受講生5名は中国からの留学生であったが、意欲的に課題に取り組み、一定の成果が上がった。 完成の喜びを体験することができた。 | 大きな問題はなかったが、留学生の日本語理解が不十分であるので、課題違反などをしないよう、チェックを増やす必要がある。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.87 |
| GD22109 デザイン学ゼミナールA 集中 | 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とする。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて充分に理解することが目的である。 | 遠隔授業で開始したが、4月で課題を提出しなくなり、その後連絡が取れなくなってしまったため、対応できなかった。 | 4月の時点で受講生からの連絡が途絶え、対応できなかった。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.88 |
| GD22122 デザイン学ゼミナールC 集中 | 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的な成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。 研究テーマを具体的な成果へと導くための調査・実験を通じて、デザイン提案に必要な仮説設定を行います。その仮説に基づくデザインモデルに対して調査・分析・評価を実施して、デザイン創出の基盤となる成果を得ることを目的とします。 | テーマを設定したが、どう進めてよいか受講生には伝わりにくく、時間が経過してしまっただけで、実行できなかった。 | 設定したテーマがあやふやにならないように、調査・分析の手順を伝えなければならない。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.89 |
| GD22136 デザイン学ゼミナールD 集中 | 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的な成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。 研究テーマを具体的な成果へと導くための調査・実験を通じて、デザイン提案に必要な仮説設定を行います。その仮説に基づくデザインモデルに対して調査・分析・評価を実施して、デザイン創出の基盤となる成果を得ることを目的とします。 | テーマを設定したが、どう進めてよいか受講生には伝わりにくく、時間が経過してしまっただけで、実行できなかった。 | 設定したテーマがあやふやにならないように、調査・分析の手順を伝えなければならない。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.90 |
| GD22121 デザイン演習C | 領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標です。 研究コンセプトを具現化するための検討手法の修得において、デザイン分野全体を視野に入れた実践的な設計能力の向上を図ることを目的としています。 | 受講者数5名。 この授業は、毎時間、学生が主体的に自分の研究テーマについて発表する形式で実施している。 学生同士討論することにより、新たな気づきや発見がある。 学生同士の研究内容をシェアすることで、モチベーションを上げることもつながる。 進んでいない時もあるが、なぜ進まなかったのか、どこに息詰まっているのかなどリアルに会話を重ねていくことで、次に進めることができる。 | 留学生について、学生同士の意見交換の際、意見を日本語で話すことが難しいとき母国語で話してしまうため、日本語で話せるように指導していきたい。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.100 |

| | | | | |
|------------------------------|--|--|---|------------------------------------|
| GD22116 デザイン学ゼミナールA | 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自覚の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 | 受講者数2名。 各自の研究テーマの進捗状況を報告、検討を行う。 学生間で意見を言い合うことで、モチベーションの向上を図る。 全員留学生のため、途中から中国語で話し始めるということが多々あり、日本語で話すよう指導する。 対面で実施することで、今まで以上に理解度は上がったが、制作へスムーズに入れるよう指導していきたい。 | 日本語の向上を図れるよう、コミュニケーションをしっかりとしていきたい。 学生が主体的に進められるよう、サポートしていく。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.101 |
| GD22120 デザイン学ゼミナールA | 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自覚の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 | 毎回の授業におけるディスカッションにより、各自の研究計画を現実的にし、研究テーマを具体化できた。 | 研究の計画と進捗を把握できるようにするため可視化する。 | 授業評価5.0 回答率100% 科目GPA2.50 |
| GD22107 認知科学 | 認知科学を正しく理解し、デザイン開発に適用できる基本的知識と能力を付けることが目標です。 | デザインに関連性のある協調と創造性に関する認知科学の先行研究・事例を題材にした。 簡易的な創造性の実験を通して、定量的な評価と定性的な評価方法を検討し、考察についてディスカッションすることができた。 | 学習内容が基本的な部分とはいえ、提供した先行研究・事例が古いもののみであったため、最近の事例も組み入れる。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.107 |
| GD22104 視覚デザイン論 | 視覚伝達について、いろんな物見せたり、様々な話をして理解してもらおう授業。 | 中国の大学でも一通り勉強をしてきているが、大学院ということにより深い理解をしてもらうために授業を行なった。 | 来年度の受講生に合わせて考えていく。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.109 |
| GD22115 デザイン学ゼミナールA 集中 | 学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。 | 特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。 | 特にありません。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.110 |
| GD22128 デザイン学ゼミナールC 集中 | 学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。 | 特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。 | 特にありません。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.111 |
| GD22142 デザイン学ゼミナールD 集中 | 学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。 | 特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。 | 特にありません。 | 授業評価4.33 回答率64.5% 科目GPA2.112 |

